

国語科学習指導案（2年〇組）

平成24年〇月〇日（〇）～〇月〇日（〇）

指導者 横谷 隆

1 単元名 「筆者の主張について考えたことを友達に発表しよう」 ～知識や体験と関連付けて自分の考えをもつ～

2 考察

(1) 教材観

題材文「ガイアの知性」は、人間とは異なる高度な知性をもつ鯨や象の具体例を紹介することで、今までの人間の生き方に疑問を投げかけ、鯨や象の「知性」を学び、人間の「知性」から「ガイアの知性」に進化する必要があると提言している説明的文章である。特徴として、①『序論(話題提示)→本論(具体的事例)→結論(筆者の主張)』という段落ごとの内容を読み取りやすい構成、②「筆者の気持ちの変化や具体的事例である鯨や象に対する思いなど筆者の主張が読み取りやすい文章」等が挙げられる。これらを生かし、内容を正確に読み取る「基礎学習」の段階、それを基にして自分の考えをもつ「発展学習」の段階を設定する。

学習指導要領には、第2学年「C読むこと」の指導事項「エ 文章に表れているものの見方や考え方について、知識や体験と関連付けて自分の考えをもつこと」とあり、指導事項「ア 抽象的な概念を表す語句や心情を表す語句などに注意して読むこと」と指導事項「イ 文章全体と部分との関係、例示や描写の効果、登場人物の言動の意味などを考え、内容の理解に役立てること」とを関連させながら指導していく。また、「はばたく群馬の指導プラン」でも、「立場を意識して論理的でわかりやすく表現する」が課題として挙げられており、筆者の主張に対して根拠を明確にして自分の考えをもち、それを友達に説明することで、論理的な思考力や表現力の育成を図りたい。

これらを受け、具体的には、「基礎学習」の段階として、「キーワードとなる語句の意味を話の展開を追いながら理解する活動」や、「文章中に示されている具体的な例が筆者の論の展開の中で果たしている役割を考える活動」を設定する。そして、「発展学習」の段階として、『共感できる』と『疑問をもつ』といった異なる立場で文章を読み直し、自分の知識や体験を根拠にして自分の立場を決定する活動」を設定、言語活動として、「C読むこと」の言語活動例「イ 説明や評論などの文章を読み、内容や表現の仕方について自分の考えを述べること」を基に構想した、文章を読んでとらえた筆者の主張とそれに対する自分の考えを目的意識や相手意識をもって述べ合う活動を行う。

以上のことから、生徒が内容を理解したり自分の考えをもったりすることに適した題材であると考え、教材として設定した。

(2) 生徒の実態（男子〇名、女子〇名、計〇名）

生徒たちは1年生の時に、説明的文章「動物の睡眠と暮らし」の学習を通して、筆者の考えに対する共感や疑問を基にグループで話し合ったことを新聞にまとめたり、「ものづくりの知恵」の学習を通して事実と意見を読み分けて要約したりしてきている。また、2年生の前期では、説明的文章「アオスジアゲハとトカゲの卵」を学習し、説得力のある文章にするための工夫として、どうしてそのような考えに至ったのか、経験や体験を例示する効果を考えたり、三つの大段落の内容と相互の関係に注意して読んだりしてきている。本単元では、筆者の主張について読み取った後で、筆者の主張と自分の考えを比べ、自分の知識や体験を根拠にした考えをもたせ、友達に説明していく言語活動を行う。

3 単元の目標

筆者の主張について自分の知識や体験と関連付けることで、根拠を明確にした考えをもつ。

4 授業中における生徒指導

- 自分の考えをもち、それを友達に発表するという目標をもたせ、積極的に課題に挑戦する態度を養う。
- 根拠を明確にした自分の考えをまとめるために、段階的に学習を進め、思考を整理させることで、達成感をもたせる。
- 考えを発表し合う中で、友達のよさに気付かせたり、未来の地球の環境を大切にする気持ちを高めさせたりする。

5 指導と評価の計画（6時間予定）【関】：関心・意欲・態度、【読】：読むこと、【言】：言語について知識・理解

評価 規 準	(1) 筆者の主張に対して共感できる箇所や疑問に思う箇所について考え、自分のものの見方や考え方を広げようとしている。【関】		(2) 筆者の主張に対して、自分の知識や体験と関連付けながら考えをもっている。【読】		(3) キーワードに着目し、その語句が表す意味を理解し、語彙を豊かにしている。【言】	
次時	主な学習活動		指導上の留意点及び支援・評価		関	読言
1	基礎(正確に読む) ①「ガイアの知性」を学習して考えたことを友達に説明するという学習内容を知る。 ②第一大段落を読んで、話題提示の内容をまとめる。		○目的意識をもたせることで、学習の見通しをもたせる。 ○筆者が読者に伝えようとしていることは「三種は似ている」「人と他の二種は違っている」のどちらか確認してから内容をまとめさせる。 【読】：第一大段落で筆者が話題を提示している内容をまとめている。(ワークシート①)		○	
	③第二大段落の中から三つの具体例を探し、それぞれの内容を読み取り、まとめる。		○ワークシートに入る言葉を教科書から探させて、内容を読み取らせる。 ○具体例の役割について考え、第二大段落をまとめさせる。 【読】：「オルカ」「イルカ」「象」それぞれの話をワークシートにまとめている。(ワークシート②)		○	
	④第三大段落を読んで、筆者の主張についてまとめる。		○「ガイアの知性」についてキーワードに着目させ、図にまとめさせる。 ○「ガイアの知性」の意味を理解させた上で、筆者の主張についてまとめさせる。 【読】：筆者の主張についてワークシートにまとめている。(ワークシート③) 【言】：キーワードに着目し、その語句が表す意味を理解し、語彙を豊かにしている。(ワークシート③)		○	○
2	発展(自分の考えをもつ) ＜考えを広げる＞ ⑤筆者の主張について共感できる箇所と疑問に思う箇所を探す。 ⑥それぞれの根拠を自分の知識や体験から書く。 ⑦グループで発表し合い、自分に必要な根拠を補強する。		○共感できる箇所、疑問に思う箇所について参考例を挙げ、それぞれ一つ以上見付けられるようにする。 ○根拠となる知識や体験について参考例を挙げ、見通しをもたせて取り組ませる。 ○それぞれの根拠をできるだけ多く書かせる。 【関】：筆者の主張について共感できる箇所と疑問に思う箇所を自分の知識や体験を根拠にワークシートにそれぞれ書き出し、自分の考えを広げようとしている。(ワークシート④)		○	
3	＜立場を選択する＞ ⑧立場を選択してから自分の考えをワークシートに書く。 ⑨グループでそれぞれの考えを交流し、自分の考えを見直す。 ⑩選択する立場を確定する。		○「共感」と「疑問」のどちらが自分の考えに近い立場を暫定的に選択させ、自分の考えをまとめさせる。 ○根拠を発表・交流させ、自分の考えを深めさせる。 ○改めて自分の考えをまとめさせてから立場を確定させる。 【読】：筆者の主張について自分の考えをまとめ、自分の立場を確定している。(ワークシート⑤)		○	
4	＜考えをもつ＞ ⑪自分の考えを双括型の文章構成で書き直す。 ⑫グループで自分の考えを説明し合う。 ⑬これまでの学習を振り返り、まとめをする。		○双括型で文章構成されたワークシートに「筆者の主張」「自分の考え」「根拠」を記入させる。 ○ワークシートを基に伝える相手を意識させて説明させる。 ○自分の考えをもつ力が高まったか自己評価、相互評価させる。 【読】：筆者の主張について根拠を明確にした自分の考えをまとめている。(ワークシート⑥)		○	

6 本時の展開（1／6）基礎 1

(1) ねらい

第一大段落で、筆者が話題を提示している内容をまとめる。

(2) 準備

教科書（教育出版）、ワークシート①

(3) 展開

学 習 活 動	時間	指導上の留意点及び評価 ◆努力を要する生徒への手だて
<単元の目標を確認する> 1 単元の目標を知る。 筆者の主張について考えたことを友達に発表しよう。	5分	- 単元の目標を明らかにし、目的意識をもたせることで、学習の見通しを立てさせる。 ◆人類が原因と思われる環境破壊の資料を提示して、学習内容のイメージをもたせる。
<課題を把握する> 2 本時のねらいを知る。 第一大段落を読み、筆者が提示している話題の内容をまとめよう。	5分	- ワークシートを配付し、本時のねらいを伝える。 ◆ワークシートに沿って学習していくと、ねらいが達成できることを伝え、本時の学習の見通しをもたせる。 - 第一大段落を読ませる。
<課題を追究する> 3 ワークシート①㉑に取り組む。 発問㉑ 「彼ら（鯨や象と深くつきあっている人たち）には独特の、共通した雰囲気がある」とあるが、「共通した雰囲気がある」とはどのような人ですか。「（～のような）人」の形で箇条書きで三つ書いてみよう。 予想される生徒の反応 - 鯨や象を、知的好奇心の対象とは考えなくなってきた人 - 鯨や象から、なにかとてつもなく大切なものを学び取ろうとしている人 - 鯨や象に対して、畏敬の念さえ抱いているようにみえる人 - 人間としてとてもおもしろかった人 - 人種も職業も皆それぞれ異なっている人	10分	「彼らには独特の、共通した雰囲気がある（P88L4）」の場所を確認させ、第一大段落の中から抜き出させる。 「（～のような）人」の形でワークシートに書かせる。 - ワークシートへの書き込み作業は、各自でさせる。 ◆「彼ら」とは「鯨や象と深くつきあっている人たち」を指していることを確認させ、P88L4の周辺から探すようにアドバイスする。 - 学級全体の中で発表させ、板書でまとめる。 ◆「人間としておもしろかった人」を書いた生徒には、「独特」という言葉に着目させ、より具体的な答えを探すようにアドバイスする。 ◆「人種も職業も皆それぞれ異なっている人」を書いた生徒には、「共通」という言葉に着目させ、「それぞれ異なっている」では「共通」していることにはならないことや「人種も職業も皆それぞれ異なっているのに、彼らには独特の、共通した雰囲気がある」の文の接続助詞「のに」に着目させ、「のに」の前後では内容が食い違うことなので、答えとしてはふさわしくないことを確認する。
4 ワークシート①㉒に取り組む。 発問㉒ 筆者は、鯨と象が人類にどんなことを与えてくれると考えるようになったか。七字で探して書いてみよう。	5分	- 第一大段落の中から□に入る七文字を探させて記入させる。 ◆「鯨と象が人類に～を与えてくれる」を目印に中に入る七文字を探させる。 - 学級全体の中で発表させ、板書でまとめる。
5 ワークシート①㉓に取り組む。 発問㉓ 「このような点から見ると、鯨と象と人は確かに似ている。しかし、誰の目にも明らかなように、人和其他の二種とは何かが決定的に違っている」とあるが、筆者がこの後、読者に伝えようとしていることは、次のどちらだと思うか。自分で選んだ方に○を付けて、選んだ理由を書いてみよう。	10分	- 第一大段落で筆者が伝えようとしていることを読み取るために「三種は似ている」と「人和其他の二種は違っている」のどちらが伝えようとしていることかを選択させ、選んだ理由も書かせる。 - 第一大段落には「三種は似ている」の具体例が多く書かれているが、□や□で読み取ったことや接続詞「しかし」に着目させることで、「人和其他の二種は違っている」が筆者の伝えたいことであることに気付かせたい。 ◆選んだ理由が書けない生徒には、第一大段落のどこを読んだのか考えさせ、見付けた所を抜き出して書かせる。 - 学級全体の中で発表させ、板書でまとめる。

予想される生徒の反応 三種(鯨と象と人)は似ている 「大脳新皮質の大きさとその複雑さからみて、鯨と象と人はほぼ対等の精神活動ができる」ことや「誕生からの成長過程がほぼ同じで、あらゆる動物の中で最も遅い」ことが書かれているから。 人和其他の二種(鯨と象)は違っている 「このような点から見ると、鯨と象と人は確かに似ている。しかし、誰の目にも明らかなように、人和其他の二種とは何かが決定的に違っている」と書かれていて「しかし」の前ではなく、後の「何かが決定的に違っている」が強調されているから。		
6 ワークシート①④に取り組む。 発問④ 第一大段落で筆者が話題を提示している内容を□～□を参考にまとめてみよう。	10分	・筆者は、第一大段落の後、読者に三種は似ていることではなく、人和其他の二種は違っていることを伝えようとしていることを確認してから、話題を提示している内容をまとめさせる。 ・様々なまとめ方が考えられることを伝え、筆者が最も伝えようとしていることを中心にまとめたか見直しをさせる。 ◆第一大段落の最後の二文「このような点から見ると、鯨と象と人は確かに似ている。しかし、誰の目にも明らかなように、人和其他の二種とは何かが決定的に違っている」に着目させ、「このような点」とは何を指しているのか考えさせてまとめさせる。
予想される生徒の反応 ・鯨や象からなにかとてつもなく大切なものを学び取ろうとしている人たちがいる。大脳新皮質の大きさと複雑さや成長過程など鯨と象と人は確かに似ているが、人和其他の二種とは何かが決定的に違っている。 ・鯨や象と深くつきあっている人たちは、独特の共通した雰囲気をもっている。そして、彼らからなにかとてつもなく大切なものを学び取ろうとしているだけでなく、畏敬の念さえ抱いているようにみえる。 ・大脳新皮質の大きさと複雑さからみて、鯨と象と人はほぼ対等の精神活動ができる、と考えられる。実際、成長過程など鯨と象と人はほぼ同じで、確かに似ている。		
		【読】：第一大段落で筆者が話題を提示している内容をまとめている。 (ワークシート①)
＜本時のまとめをする＞ 7 本時の学習を振り返り、第一大段落で筆者が話題を提示している内容を発表し合い、共有する。	5分	・数人の生徒に発表させ、第一大段落で筆者が話題を提示している内容を板書しまとめることで、読み取ったことを共有させる。 ・次時の学習の流れについて、簡単に説明する。

板書計画

ガイアの知性 龍村 仁 第一大段落を読み、筆者が話題を提示している内容をまとめよう。 一 鯨や象を、知的好奇心の対象とは考えなくなってきた人 ○ 鯨や象から、なにかとてつもなく大切なものを学び取ろうとしている人 ○ 鯨や象に対して、畏敬の念さえ抱いているようにみえる人 △ 人間としてとてもおもしろかった人 × 人種も職業も皆それぞれ異なっている人 二 ある重大な示唆を与えてくれる 三 (一) 三種(鯨と象と人)は似ている (二) 人和其他の二種(鯨と象)は違っている 選んだ理由 ・「しかし」の前ではなく、後の「何かが決定的に違っている」が強調されているから。 ・「鯨や象から、なにかとてつもなく大切なものを学び取ろうとしている」と書かれていて、大切なことをこれから伝えようとする感じがするから。 四 筆者が話題を提示している内容 鯨や象からなにかとてつもなく大切なものを学び取ろうとしている人たちがいる。大脳新皮質の大きさと複雑さや成長過程など鯨と象と人は確かに似ているが、人和其他の二種とは何かが決定的に違っている。	
---	--

本時の展開（２／６）基礎２

(1) ねらい

第二大段落を読み、具体例の内容をまとめる。

(2) 準備

教科書（教育出版）、ワークシート②

(3) 展開

学 習 活 動	時間	指導上の留意点及び評価 ◆努力を要する生徒への手だて
＜課題を把握する＞ 1 本時のねらいを知る。 第二大段落を読み、具体例の内容をまとめよう。	10分	・前時を振り返り、単元の目標と本時は鯨と象から学ぶべき大切なものについて読み取っていくことを確認する。 ・ワークシートを配付し、本時のねらいを伝える。 ◆ワークシートに沿って学習していくと、ねらいが達成できることを伝え、本時の学習の見通しをもたせる。 ・第二大段落を読ませる。
＜課題を追究する＞ 2 ワークシート②□□に取り組む。 発問□ 「鯨や象が、自分たちと対等の『知性』をもった存在とはとても思えない」という「常識」に対する疑問を示している文を抜き出してみよう。 予想される生徒の反応 ・鯨や象は、人の「知性」とは全く別種の「知性」をもっているのではないか。 ・人の「知性」は、このガイアに存在する大きな「知性」の偏った一面の現れであり、もう一方の面に鯨や象の「知性」が存在するのではないか。 ・オルカやイルカは決して、ただ餌を欲しいがために本能的に芸をしているのではない。	10分	・「鯨や象が、自分たちと対等の『知性』をもった存在とはとても思えない（P90 L14）」の場所を確認させ、第二大段落前半から抜き出させる。 ・言い方を変えて書かれているため、「疑問」を示している文が二文あることを伝える。 ◆P90 L14の周辺から探すようにアドバイスする。 ◆一文しか抜き出せていない生徒には、「あるいは」という言葉に着目させ、言葉の前後を探すようにアドバイスする。
3 ワークシート②□□に取り組む。 発問□ 鯨や象の「知性」の具体例①～③について【 】に動物名を、（ ）に当てはまる言葉を、それぞれ第二大段落から探して次の要約文を完成させよう。	15分	・第二大段落の中から動物名と当てはまる言葉を探させてワークシートに記入させる。 ◆第二大段落の中に書かれている具体例①～③の場所を確認させ、その中から動物名と当てはまる言葉を探させる。 ・学級全体の中で発表させ、板書でまとめる。 【読】：「オルカ」「イルカ」「象」それぞれの話をワークシートにまとめている。 （ワークシート②）
4 ワークシート②□□に取り組む。 発問□ 第二大段落の内容をまとめてみよう。	10分	・筆者はどんな考えを読者に伝えるために第二大段落を書いたのか具体例①～③の要約文を基に第二大段落の内容をまとめさせる。 ◆具体例①～③をまとめると、どういう意味の言葉になるのか「つまり」の後に続く言葉を考えさせることで抽象化させる。

予想される生徒の反応 ・ 鯨や象は、人の「知性」とは全く別種の「知性」をもっている。 ・ 人の「知性」は、このガイアに存在する大きな「知性」の偏った一面の現れであり、もう一方の面に鯨や象の「知性」が存在する。 ・ 鯨や象は、人とは違うすごい「知性」をもっている。 ・ 鯨や象は頭がいい。		
＜本時のまとめをする＞ 5 本時の学習を振り返り、第二大段落の内容を発表し合い、共有する。	5分	・ 数人の生徒に発表させ、第二大段落の内容を確認することで、具体例①～③の役割について板書を基にまとめ、読み取ったとを共有させる。 ・ 次時の学習の流れについて、簡単に説明する。

板書計画

ガイアの知性 龍村 仁 第二大段落を読み、具体例の内容を読み取る。		① 鯨や象は、人の「知性」とは全く別種の「知性」をもっているのではない。 ・ 人の「知性」は、このガイアに存在する大きな「知性」の偏った一面の現れであり、もう一方の面に鯨や象の「知性」が存在するのではない。
② 要約文 具体例① 「イルカ」や「イルカ」は、たがが欲しいから本能的に「善」をしているのではなく、捕らわれの身になった自分の状況を受け入れると決意した時、自分とコミュニケーションしようとしている人間を「善」させるために、そして、生きることを楽しむために「善」と呼ばれることを始める。	具体例② フロリダの学者が雌の「イルカ」に名前をつけて発音させようと試みた。うまくいったときには、学者は頭を上下にうんと振った。何度も繰り返しているうちに、「イルカ」も学者に「イルカ」の名前をつけ、発音させようとしているらしく、その学者の発音がうまくいったときにはうんと頭を振り、とてもうれしそうにブルブルうはしやぎまわった。	具体例③ アフリカの（ケニア）で、ある自然保護官が（自然死した象の遺体）を集めていた。草原で新しく見つけたものを持ち帰り倉庫に納めていたところ、肉親らしい巨大な「象」がやってきて、数百個も集められていた中から新しく収集したものだけを見分けて持ち出し、元の場所に戻した。どうやって探し、なぜ元の場所に戻したのかは謎である。
③ つまり（抽象化） 具体例① 具体例② 具体例③ 鯨や象は、人の「知性」とは全く別種の「知性」をもっている。		

本時の展開（3／6）基礎3

- (1) ねらい
第三大段落を読み、筆者の主張をまとめる。
- (2) 準備
教科書（教育出版）、ワークシート③
- (3) 展開

学 習 活 動	時間	指導上の留意点及び評価 ◆努力を要する生徒への手だて
＜課題を把握する＞ 1 本時のねらいを知る。 第三大段落を読み、筆者の主張をまとめよう。	5分	・ 前時を振り返り、単元の目標と本時は最後の段落から結論を読み取っていくことを確認する。 ・ ワークシートを配付し、本時のねらいを伝える。 ◆ワークシートに沿って学習していくと、ねらいが達成できることを伝え、本時の学習の見通しをもたせる。 ・ 第三大段落を読ませる。
＜課題を追究する＞ 2 ワークシート③④に取り組む。 発問① 第三大段落を読み、次のキーワードについてまとめてみよう。 (1) ①②のキーワードを別の言い方に直す。	5分	・ 第三大段落から、「人間の『知性』」と「鯨や象の『知性』」を別の言い方で言い換えたキーワードを探させる。 ◆「〇〇な知性」の形で書かれているものを探すようにアドバイスする。 ・ 学級全体の中で発表させ、板書する。

(2) ①②のキーワードの意味についてまとめる。	10分	・二つのキーワード「攻撃的な知性」「受容的な知性」の意味について、第三大段落の言葉を使ってまとめさせる。 ・「～知性」の形でまとめるように指示する。 ◆キーワードの周辺に書かれていることをよく読んで、まとめるようにアドバイスする。 ・学級全体の中で発表させ、板書しまとめる。 【言】：キーワードに着目し、その語句が表す意味を理解し、語彙を豊かにしている。 (ワークシート③)
(3) ③のキーワードについてまとめる。	5分	・「真の意味の『ガイアの知性』に進化する必要がある」(P94L19) が書かれているところを確認してから、ワークシートの空欄を埋めさせる。
3 ワークシート③にに取り組む。 発問 筆者の主張について①の①～③を参考にまとめてみよう。 予想される生徒の反応 (例) 自分たちの安全と便利さのために自然をコントロールし、意のままに支配しようとする「攻撃的な知性」を異常に進歩させてしまった人類は、自然をコントロールしようなどとはいっさい思わず、それに適応して生きるために高度な「知性」を使う「受容的な知性」の持ち主である鯨や象たちからさまざまなことを学ぶことによって、真の意味の「ガイアの知性」に進化する必要がある。	15分	・「ガイアの知性」の意味を全体で確認させてから、筆者の主張についてワークシートにまとめさせる。 ・「攻撃的な知性」と「受容的な知性」の意味が分かるようにまとめるよう指示する。 ◆「真の意味の『ガイアの知性』に進化する必要がある」(P94L19) が書かれているところを再度確認させ、この部分を基にして文章にまとめる方法をアドバイスする。 【読】：筆者の主張についてワークシートにまとめている。 (ワークシート③)
＜本時のまとめをする＞ 4 本時の学習を振り返り、筆者の主張をまとめた文章を発表し合い、共有する。	10分	・数人の生徒に発表させ、第三大段落の筆者の主張を板書にまとめ、読み取ったことを共有させる。 ・次時の学習の流れについて、簡単に説明する。

板書計画

① 人間の「知性」とは…「攻撃的な知性」意味
自分たちだけの安全と便利さのために自然をコントロールし、意のままに支配しようとする知性

② 鯨や象の「知性」とは…「受容的な知性」意味
自然をコントロールしようなどとはいっさい思わず、そのかわり、この自然のもつ無限に多様で複雑な営みを、できるだけ繊細に理解し、それに適応して生きるために、使う高度な知性

③ 「ガイアの知性」とは
攻撃的な知性 + (学ぶ) 受容的な知性

↓ 進化 ↓

「ガイアの知性」

ガイアの知性
第三段落を読み、筆者の主張をまとめよう。
龍村 仁

① 筆者の主張
自分たちの安全と便利さのために自然をコントロールし、意のままに支配しようとする「攻撃的な知性」を異常に進歩させてしまった人類は、自然をコントロールしようなどとはいっさい思わず、それに適応して生きるために高度な「知性」を使う「受容的な知性」の持ち主である鯨や象たちからさまざまなことを学ぶことによって、真の意味の「ガイアの知性」に進化する必要がある。

本時の展開（４／６）発展１「視野を広げる」

(1) ねらい

筆者の主張について共感できる箇所と疑問に思う箇所をまとめる。

(2) 準備

教科書（教育出版）、ワークシート④

(3) 展開

学 習 活 動	時間	指導上の留意点及び評価 ◆努力を要する生徒への手だて
＜課題を把握する＞ 1 本時のねらいを知る。 筆者の主張について共感できる箇所と疑問に思う箇所をまとめよう。	5分	・前時を振り返り、単元の目標と本時は二つの異なる視点で考えをまとめていくことを確認する。 ・ワークシートを配付し、本時のねらいを伝える。 ◆ワークシートに沿って学習していくと、ねらいが達成できることを伝え、本時の学習の見通しをもたせる。
＜課題を追究する＞ 2 共感できる箇所と疑問に思う箇所をそれぞれ一つ以上探して、ワークシート④に書き写す。 発問 共感できる箇所と疑問に思う箇所をワークシートに書き出してみよう。	10分	・共感できる箇所、疑問に思う箇所について参考例を挙げ、それぞれ一つ以上見付けられるようにする。 ・文章全体を読み直させて、共感できる箇所と疑問に思う箇所をワークシートに書き写させる。 ◆共感できる箇所について見付けられない場合は、人間の「攻撃的な知性」について想起させ、筆者の主張に共感できる箇所を探させる。 ◆疑問に思う箇所について見付けられない場合は、筆者の主張や動物の具体例などを確認させ、「少しだけ疑問に思う」や「ちょっと言い過ぎていると思う」という箇所を探させる。 生徒に紹介する参考例 共感できる箇所 鯨や象が高度な「知性」をもっていることは、たぶん間違いない事実だ。 疑問に思う箇所 人間は環境破壊を起こし、地球全体の生命を危機に陥れている。
予想される生徒の反応 共感できる箇所 ・我々人類は、今、もう一方の「知性」の持ち主である鯨や象たちからさまざまなことを学ぶことによって、真の意味の「ガイアの知性」に進化する必要がある。 ・オルカは、自分のもっている高度な能力を、か弱い人間のレベルに合わせて制御し調整している。 疑問に思う箇所 ・象が、なぜ歯を元の場所にわざわざ戻したのだろうか。 ・象については、こんな話がある。（「受容的な知性」の例として疑問に感じる）		
3 それぞれの根拠を自分の知識や体験からワークシート④に書く。 発問 なぜそう思ったのか自分の知識や体験を根拠に書いてみよう。	15分	・根拠となる知識や体験について参考例を挙げ、見通しをもたせて取り組ませる。 ・根拠となる知識は、既習事項だけではなく、書籍やテレビなど個人でもっている情報の中から探させる。 ・根拠となる体験は、生活の中で自分が体験したことから探させる。 ・それぞれの根拠をできるだけ多く書かせる。 ◆鯨や象の優れた力や人間が起こした自然破壊について、知っていることを書くようにアドバイスする。 ◆人間はこれから自然をコントロールするために「知性」を使うべきではないか、現在の進んだ技術で知っていることを書くようにアドバイスする。

		——生徒に紹介する参考例—— 共感できる箇所 鯨やイルカが、鳴き声を使ってコミュニケーションをとりながら協力して暮らしていることを本で読んだことがあるから。 疑問に思う箇所 人間は今、社会全体で環境を守ろうとしているので、地球全体の生命を危機に陥れているとは言い過ぎだと思うから。
		【関】：筆者の主張について共感できる箇所と疑問に思う箇所を自分の知識や体験を根拠にワークシートにそれぞれ書き出し、自分の考えを広げようとしている。 (ワークシート④)
4 グループで発表し合い、自分に必要な根拠を補強する。	10分	・グループ内で一人ずつ考えを発表させる。 ・友達の発表を聞いて、参考になったものは、自分の根拠として補強させる。 ◆空欄になっている所については、友達の意見を参考にし一つでもいいから書かせる。
＜本時のまとめをする＞ 5 本時の学習を振り返り、自己評価をする。	10分	・ワークシート④の「学習を振り返って」に記入させる。 ・次時の学習の流れについて、簡単に説明する。

板書計画

疑問に思う箇所（そうかな？）	共感できる箇所（そうだな！）	
		引用
		根拠

ガイアの知性
筆者の主張について共感できる箇所と疑問に思う箇所をまとめよう。
龍村 仁

本時の展開（５／６）発展２「立場を選択する」

(1) ねらい

「ガイアの知性」を学習して考えたことをまとめる。

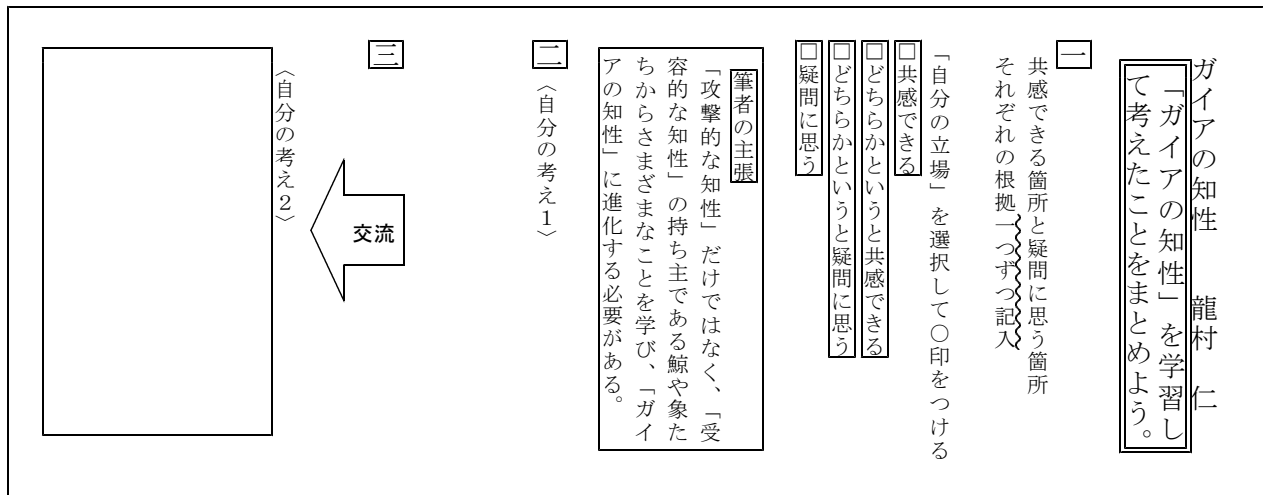
(2) 準備

教科書（教育出版）、ワークシート⑤

(3) 展開

学 習 活 動	時間	指導上の留意点及び評価 ◆努力を要する生徒への手だて
<課題を把握する> 1 本時のねらいを知る。 「ガイアの知性」を学習して考えたことをまとめよう。	5分	・前時を振り返り、単元の目標と本時は自分の立場を決めて考えをまとめていくことを確認する。 ・ワークシートを配付し、本時のねらいを伝える。 ◆ワークシートに沿って学習していくと、ねらいが達成できることを伝え、本時の学習の見通しをもたせる。
<課題を追究する> 2 ワークシート⑤□□に取り組む。 発問□ 左の図にワークシート④から選んだ共感できる箇所と疑問に思う箇所とその根拠を記入し、二つを比べてから、「自分の立場」を選択して○印を付けよう。	10分	・前時に使用したワークシート④の共感できる箇所と疑問に思う箇所それぞれの根拠を比較させ、自分の考えに一番近いものを一つずつワークシート⑤に記入させる。 ・共感できる箇所と疑問に思う箇所の根拠を比較させる。 ・「自分の立場」を選択させ、ワークシート⑤に○印を記入させる。
3 ワークシート⑤□□に取り組む。 発問□ 「自分の立場」を基に筆者の主張についての〈自分の考え１〉をまとめよう。	15分	・選択した「自分の立場」を基に筆者の主張について〈自分の考え１〉をワークシート⑤に記入させる。 ◆□□で比較した根拠を基に考えをまとめさせる。
予想される生徒の反応 (例)新聞やテレビなどで、地球の環境が破壊されているという話は聞いたことがあり、筆者のいうようにこれから人類は、今ある環境を守るために「知性」を使う必要があると思う。しかし、鯨や象の具体例については、関係者からの情報であり、科学的根拠としては弱いので、学ぶべきかどうか疑問が残る。		
4 ワークシート⑤□□□に取り組む。 発問□ 〈自分の考え１〉について友達と交流した後に再度〈自分の考え２〉をまとめよう。	10分	・グループ内で一人ずつ考えを発表させる。 ・友達の発表を聞いて、参考になったものは、ワークシート⑤メモ欄に記入させる。 ◆立場が違う人の考えは書くようにアドバイスする。 ・発表し終わったら、交流したことを基に〈自分の考え２〉をワークシート⑤に記入させ、選択する「自分の立場」を確定させる。 【読】：筆者の主張について自分の考えをまとめ、自分の立場を確定している。 (ワークシート⑤)
<本時のまとめをする> 5 本時の学習を振り返り、自己評価をする。	10分	・ワークシート⑤の「学習を振り返って」に記入させる。 ・次時の学習の流れについて、簡単に説明する。

板書計画



本時の展開（6／6）発展3「考えをもつ」

(1) ねらい

「ガイアの知性」を学習して考えたことを友達に説明する。

(2) 準備

教科書（教育出版）、ワークシート⑥

(3) 展開

学 習 活 動	時間	指導上の留意点及び評価 ◆努力を要する生徒への手だて
<課題を把握する> 1 本時のねらいを知る。 「ガイアの知性」を学習して考えたことを友達に説明しよう。	5分	- 前時を振り返り、単元の目標である筆者の主張について考えたことを友達に発表することを確認する。 - ワークシートを配付し、本時のねらいを伝える。 ◆ワークシートに沿って学習していくと、ねらいが達成できることを伝え、本時の学習の見通しをもたせる。
<課題を追究する> 2 ワークシート⑥－Ⅰに取り組む。 発問□ 筆者の主張について考えたこと〈自分の考え2〉を双括型の文章構成でまとめるため、次の①②③の指示に従い、構成表を完成させよう。	15分	- 教科書P 190を参照させ、双括型の文章構成について説明する。 ①には、筆者の主張（A）と自分の考え（B）を【例】を参考にまとめさせる。 筆者は「A」と言っていることについて、私は「B」と思う。 ②には、根拠をまとめさせる。 ③には、再度、自分の考え（B）をまとめさせる。 ①②③が書けた人には、発展学習として「予想される反論」と「反論に対する反論」を考えさせ、記入させる。 ◆ワークシート⑤と⑥の対応する場所を確認して、構成表が完成するように支援する。
3 ワークシート⑥－Ⅱに取り組む。 発問□ 発表原稿を書こう。 (双括型・四百字程度)	15分	- 構成表を基に発表原稿を書かせる。 「友達に説明する」という目的意識や相手意識をもたせ、言葉遣いや文末の表現など気を付けさせる。 ◆構成表に沿って書くようにアドバイスする。 【読】：筆者の主張について根拠を明確にした自分の考えをまとめている。 (ワークシート⑥)

4 グループで自分の考えを説明し合う。	10分	・ワークシートを基に説明させる。
<本時のまとめをする> 5 本時の学習を振り返り、自己評価をする。	5分	・ワークシート⑤の「学習を振り返って」に記入させる。 ・「感想」の欄に自分の考えをもつことができたか自己評価、相互評価させる。

板書計画

発表原稿を書こう
(双括型・四百字程度)

一

③ 自分の考え

発展

② 根拠

① 筆者の主張と自分の考え

構成表

「ガイアの知性」を学習して
考えたことを友達に説明しよう。

ガイアの知性

龍村 仁

ガイアの知性（準備）

二年

組 氏名（

）

辞書で漢字の読みと意味を調べて学習の準備をしよう。

畏敬の念

畏敬

念

示唆

匹敵

異口同音

細心

三次元

過酷

声帯

かんぬき

肉親

陥れる
（れる）

ガイアの知性（ワークシート①）

二年

組 氏名（

）

第一大段落を読み、筆者が提示している話題の内容をまとめよう。

- 「彼ら（鯨や象と深くつきあっている人たち）には独特の、共通した雰囲気がある。」とあるが、「共通した雰囲気がある」とはどのような人ですか。「（ ）のような」人の形で箇条書きで三つ書いてみよう。

・
・
・

- 筆者は、鯨と象が人類にどんなことを与えてくれると考えるようになったか。

□ に当てはまる語句を、本文から七字で探して書いてみよう。

を与えてくれる

- 「このような点から見ると、鯨と象と人は確かに似ている。しかし、誰の目にも明らかのように、人その他の二種とは何かが決定的に違っている」とあるが、筆者がこの後、読者に伝えようとしていることは、次のどちらだと思うか。自分で選んだ方に○を付けて、選んだ理由を書いてみよう。

（ ） **三種（鯨と象と人）は似ている**

（ ） **人その他の二種（鯨と象）は違っている**

選んだ理由

--

- 第一大段落で筆者が話題を提示している内容を□□□を参考にまとめてみよう。

--

ガイアの知性（ワークシート②）

二年 組 氏名（ ）

第二大段落を読み、具体例の内容をまとめよう。

- 一
- 「鯨や象が、自分たちと対等の『知性』をもった存在とはとても思えない」という「常識」に対する疑問を示している文を抜き出してみよう。（三文）

・
・

- 二
- 鯨や象の「知性」の具体例①～③について「 」に動物名を、（ ）に当てはまる言葉を、それぞれ第二大段落から探して次の要約文を完成させよう。

◎要約文

具体例①

【 や 】 は、ただ餌が欲しいから本能的に（ ）をしているのではなく、捕らわれの身になった自分の状況を受け入れると（ ）した時、自分とコミュニケーションしようとしている人間を（ ）ために、そして、生きることを楽しむために（ ）と呼ばれることを始める。

具体例②

フロリダの学者が雌の【 】に名前をつけて発音させようと試みた。うまくいったときには、学者は頭を上下にうんうんと振った。何度も繰り返し振っているうちに、【 】も学者に（ ）の名前をつけ、発音させようとしているらしく、その学者の発音がうまくいったときにはうんうんと頭を振り、とてもうれしそうにプールじゅうをはしやぎまわった。

具体例③

アフリカの（ ）で、ある自然保護官が（ ）を集めていた。草原で新しく見つけたものを持ち帰り倉庫に納めていたところ、肉親らしい巨大な【 】がやってきて、数百個も集められていた中から新しく収集したものだけを見分けて持ち出し、元の場所に戻した。どうやって探し、なぜ元の場所に戻したのかは謎である。

- 三
- 、第二大段落の内容をまとめてみよう。

具体例①	つまり	(抽象化)
具体例②		
具体例③		

ガイアの知性（ワークシート③）

二年

組 氏名（

）

第三大段落を読み、筆者の主張をまとめよう。

二 第三大段落を読み、次のキーワードについてまとめてみよう。

① 人間の「知性」とは… 「 な知性」

意味

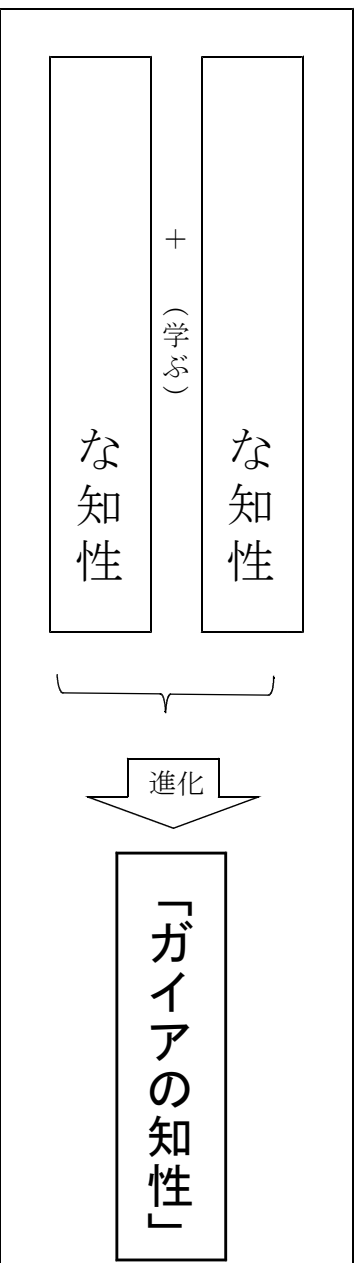
知性

② 鯨や象の「知性」とは… 「 な知性」

意味

知性

③ 「ガイアの知性」とは



二 筆者の主張について二の①、③を参考にまとめてみよう。

ガイアの知性（ワークシート④）

二年 組 氏名（

）

筆者の主張について共感できる箇所と疑問に思う箇所をまとめよう。

引用（本文から抜き出そう）				根拠（自分の知識や体験を書こう）			
共感できる箇所（そうだな！）				疑問に思う箇所（そうかな？）			
【例】 鯨や象が高度な「知性」をもっていることは、たぶん間違いない事実だ。				【例】 人間は環境破壊を起こし、地球全体の生命を危機に陥れている。			
鯨やイルカが、鳴き声を使ってコミュニケーションをとりながら協力して暮らしていることを本で読んだことがあるから。				人間は今、社会全体で環境を守ろうとしているので、地球全体の生命を危機に陥れているとはいい過ぎだと思うから。			

※ 学習を振り返って（◎よくできた・○できた・△もう少し）

感想	☆知識や体験と関連付けて共感することができた。	◎	○	△
	☆知識や体験と関連付けて疑問をもつことができた。	◎	○	△
	☆自分の考えを広げることができた。	◎	○	△

ガイアの知性（ワークシート⑤）

二年

組 氏名（

）

「ガイアの知性」を学習して考えたことをまとめよう。

一 左の図にワークシート④から選んだ共感できる箇所と疑問に思う箇所とその根拠を記入し、二つを比べてから、「自分の立場」を選択して○印をつけよう。

二 「自分の立場」を基に筆者の主張についての「自分の考え１」をまとめよう。

三 「自分の考え１」について友達と交流した後に再度「自分の考え２」をまとめよう。

共感できる箇所

根拠

疑問に思う箇所

根拠

一

自分の立場

共感できる

どちらかという
と共感できる

どちらかという
と疑問に思う

疑問に思う

二

「自分の考え１」

交流

メモ

三

「自分の考え２」

共感できる

どちらかという
と共感できる

どちらかという
と疑問に思う

疑問に思う

※ 学習を振り返って（◎よくできた・○できた・△もう少し）

☆それぞれの根拠を比較して考えを書くことができた。

☆考え方の交流をして自分の考えを深めることができた。

感想

◎	◎	△
○	○	△
△		

ガイアの知性（ワークシート⑥―I）

二年 組 氏名（

「ガイアの知性」を学習して考えたことを友達に説明しよう。

- ❶ 筆者の主張について考えたことへ自分の考え2へを双括型の文章構成でまとめるため、次の①②③の指示に従い、構成表を完成させよう。

（双括型…教科書一九〇ページ参照）

①筆者の主張（A）と 自分の考え（B） （ワークシート⑤に書いた〈自分の考え②〉を基にまとめよう）	
---	--

②根拠 （本文の引用と根拠となる知識や体験を文章にまとめよう）	
------------------------------------	--

発展 ※①②③が書けた人は、書いてみよう	予想される反論 反論に対する反論
--	--------------------------------

③自分の考え （①に書いた自分の考えと矛盾しないように文章をまとめよう）	
---	--

❷ 発表原稿を書こう。（双括型・四百字程度）

※ 学習を振り返って（◎よくできた・○できた・△もう少し）

☆知識や体験を根拠に自分の考えをもつことができた。	◎	◎	○	△
☆学習して考えたことを友達に説明することができた。	◎	○	○	△
感想				

$$\begin{array}{c} \text{I} \\ \text{II} \\ \text{---} \end{array}$$

(四〇〇字程度)

200